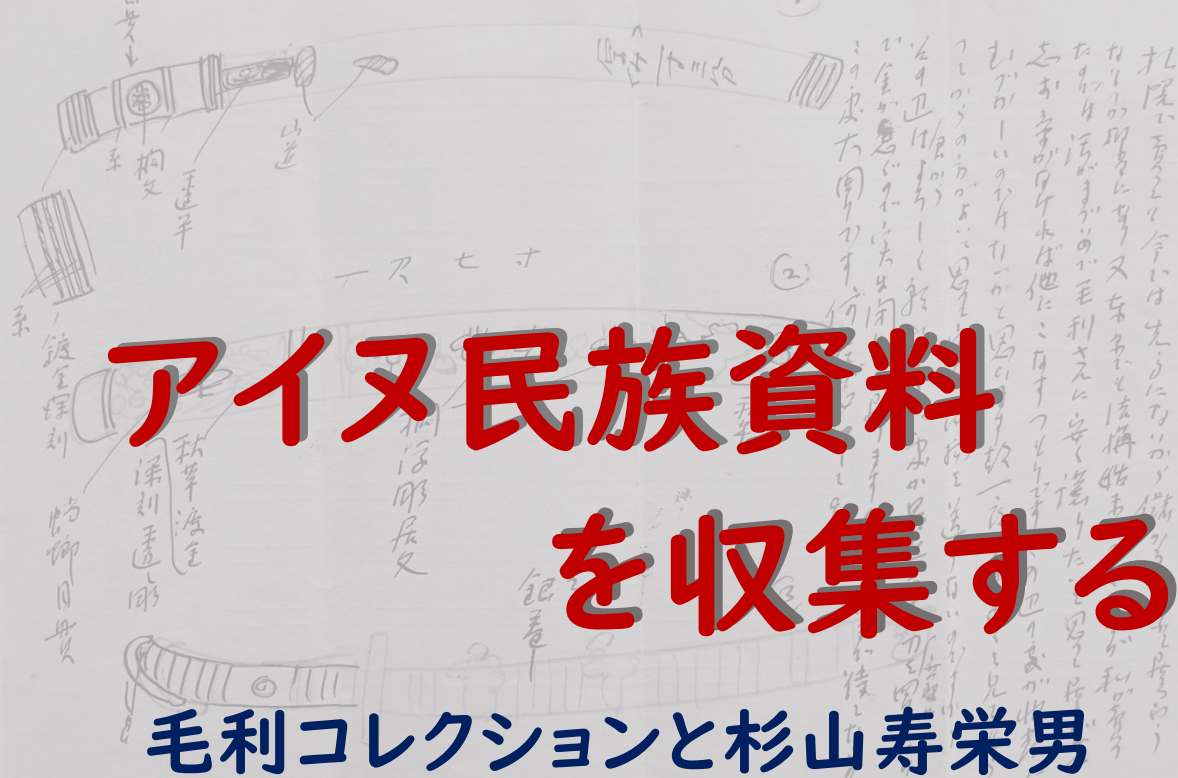




博物館講座

令和六年度石巻市博物館



アイヌ民族資料 を収集する

毛利コレクションと杉山寿栄男



上段:杉山書簡 下段左:タクネピコロ/イナウ付短い宝刀(杉山譲渡品) 中央:杉山寿栄男 右:金田一京助・杉山共著『アイヌ藝術』

令和6年(2024)12月21日(土) 13:30~15:00
(開場 13:00)

会場

マルホンまきあーとテラス 大研修室(定員 80 人、参加無料)
(住所:宮城県石巻市開成 1-8 問合せ:石巻市博物館 0225-98-4831)

講師

石巻市博物館 学芸員 泉田邦彦

講座の内容 —アイヌ民族資料は如何に収集されたのか—

毛利総七郎は、明治末年から昭和戦前期にかけて、石巻在住の遠藤源七とともに、沼津貝塚をはじめ石巻周辺の遺跡の発掘に取り組み、多くの考古資料を手元に集めました。また、古鏡、根付、刀装具、古文書、絵図などの多岐にわたる収集にも取り組み、10万点におよぶ一大資料群「毛利コレクション」を形成しました。毛利コレクションは平成23年(2011)に石巻市へ寄贈され、現在は石巻市博物館において調査・整理が進められています。

毛利コレクションのうちアイヌ民族資料は、市指定文化財に登録された710点のほか、指定後に追加寄贈を受けたものを併せて、約800点が保管されています。これらの多くは、大正年間から昭和戦前期にかけて、総七郎が遠藤源七や東京在住の図案家であり収集家であった杉山寿栄男とともに収集したもの、北海道在住の骨董商を通じて収集したものであることが近年の調査の進展により、明らかになってきました。本講座では、毛利コレクションに残された杉山寿栄男書簡の分析を中心に据え、アイヌ民族資料がどのような時代背景あるいは人的交流の下で収集されたのかについて、ひも解いていきます。

令和6年度博物館講座の予定 ※13時30分~15時、大研修室

日程	内容	担当学芸員
3/29(土)	石巻の鑄銭場	塚本 杏奈